

H-3

キャビタンド型二核金錯体触媒による末端アルキンの交差二量化反応

○金浦茉央, 岩澤哲郎

当研究室では、レゾルシン[4]アレン1分子とキノキサリン2分子からなり、触媒中心がキャビティの内側に向く錯体を母骨格とした均一系金属触媒の開発に取り組んでいる。今回我々は、キャビティの内側に二つの金元素が配向した包接型二核金錯体の合成に成功し、さらにこの二核金錯体が末端アルキンの交差二量化反応を触媒してhead-to-tail型構造の共役エニンを選択的に与えることを見出した。また、この触媒的交差二量化反応は分子内環化反応にも適用できることを見出した。